

ブルキナファソ 2020年活動報告

	2010年	2016年	2020年
幼稚園の総就園率	2.8%	2.9%	6.0%
小学校の総就学率	74.8%	86.1%	86.6%
小学校の修了率	45.8%	57.9%	60.3%
中学校の就学率	54.2%	65.7%	49.3%

治安情勢の悪化による学校の休校などの影響により、一部地域で子どもたちの就学状況が後退しています。

日本の皆さまからのあたたかいご協力でブルキナファソの子どもたちへ教育支援を届けることができました。心より御礼申し上げます。

2020年は、ブルキナファソの子どもたちにとって多くの困難に直面した厳しい1年でした。3月には、武装勢力の襲撃により治安情勢が悪化し、サヘル、東部、北部地方で約2,000校が休校を余儀なくされました。また、3月中旬からは、新型コロナウイルス感染症対策ですべての学校が休校になり、10月の新学期まで再開されませんでした。ユニセフは、子どもたちが自宅で勉強を続けられるようラジオによる遠隔教育を支援してきま

した。また、学校再開後にひとりでも多くの子どもたちが教室に戻り、再び学ぶことができるよう、日本の皆さまからのご協力で次のような支援を行ってまいりました。

「子どもにやさしい学校」で学べるように

すべての子どもたちが清潔で安心できる環境の中で、質の高い授業を受け修了できるようにユニセフが開発し推進してきた「子どもにやさしい学校」モデル。子どもを第一に考えた学校であること、障がいのある子どもを含むすべての子どもを受け入れられる学校であること、学校運営に子ども自身や地域社会に参加してもらうことを目指して、ユニセフは、校舎建設や教材の配布などのハード面と、教員研修や保護者・地域社会への啓蒙活動などのソフト面の両面で支援しています。



▶▶ 「子どもにやさしい学校」モデルの導入

2020年は、中北部、中央大地地方において、**360校**（生徒数109,951人）で新たにこのモデルが導入され、教員**1,288人**が研修を受けました。

日本の皆さまからのご協力で2014年からこれまでに**2,008校**の小学校で同モデルが導入され、**460,560人**以上の子どもたちがより良い環境の中で質の高い授業を受けられるようになりました。

▶▶ 校舎の建設、改修

「子どもにやさしい学校」の環境で子どもたちが学べるように、サヘル、東部、中西部地方で**12校**を対象に校舎の建設、改修が行われました。

校舎建設 幼稚園4園、小学校3校、中学校1校、高校1校

改修 小学校2校 **外壁の設置** 小学校1校

▶▶ 教科書の改訂

30年間使用されてきた教科書の改訂を教育省とともにを行っています。2020年には、小学校3、4年生用のフランス語と算数の教科書、幼稚園で使用する練習帳の改訂が終了しました。引き続き、他の学年や教科についての改訂を進めています。



すべての子どもに教育の機会を

ブルキナファソでは、小学校の就学率は86.6%と改善されてきていますが、小学校を中退して中学校に進学できない子ども、学校に一度も通っていない子ども、障がいがあるのに適切な通学支援を受けられていない子どもなど、置かれている状況は様々です。ユニセフは、特に厳しい状況に置かれている子どもたちのための教育支援を行っています。

▶▶ 職業訓練校への支援

学校に通っていない9歳から14歳の子どもたちを対象とした、職業訓練校への支援を行っています。ユニセフは教育省とともに、職業訓練校のカリキュラムの改定を進めており、子どもたちは、9カ月間の基礎的な読み書きや計算、スキルを学んだ後に、希望した職業の訓練を選択できます。2020年は、訓練校のスタッフ35人が新しいカリキュラムの研修を受けました。



▶▶ 障がいのある子どもたちへ

ユニセフは、東部地方で市民団体とともに障がい児教育についての啓発メッセージを、**75,000人**に届けました。また、**27人**の障がいのある小学生へ医療・社会的支援を行いました。サヘル地方では、**600人**の保護者や地域住民を対象に障がい児教育の研修を行い、**147人**の障がいのある小学生に医療・社会的支援を届けました。また、NGOとともに、就学支援が必要な**1,818人**の障がいのある子どもを新たに見つけました。

▶▶ 幼稚園への支援

就学前教育のためのテキストを**36,000冊**、400園の幼稚園に届けました。また、中央大地地方では、未就学児の両親と教育関係者**1,320人**を対象に就学前教育の研修を行いました。

安全な水と清潔なトイレを学校に

2019年の調査では、ブルキナファソの学校の52.6%で安全な水を利用できず、70.4%の学校でトイレがありません。トイレを設置している学校でも、わずか27%しか男女別のトイレが整備がされておらず、思春期を迎えた女の子たちが生理期間中に学校に通えなくなるなど、教育の妨げになっています。また、新型コロナウイルス感染症対策として、水と衛生環境の整備は、切迫した課題です。サヘル、東部、中北部、中央大地地方の学校で、水と衛生分野の支援を行いました。

▶▶ 井戸の設置

60校の学校で、20基の井戸の建設、40基の井戸の修復（内20基は太陽光発電付き）を行い、**12,000人**の生徒が安全な水を使用できるようになりました。

▶▶ 男女別のトイレの設置

27校の学校で、222基の男女別のトイレを設置し、**5,400人**の生徒が安全で清潔なトイレを使用できるようになりました。

▶▶ 生理の理解を深める

生理についての正しい知識が普及していないため、偏見などが根強く残っています。109校の**12,808人**の生徒、学校に通っていない**4,137人**の女の子が、生理の正しい知識や生理を迎えたときの対処方法について学ぶ機会を得ました。また、109校で「衛生クラブ」の活動を通じて、**12,518人**の生徒が衛生管理や生理について学びました。



井戸が修復されたモウニ小学校のストーリーをホームページからご覧いただけます。

www.unicef.or.jp/sfa/report/ido

